

(4) 主要果実の入荷と価格の見通し

仙台市中央卸売市場
(電話) 232-8122

【概要】

国産果実は、2024年問題でトラックドライバーの勤務体制の変更により遠隔地の産地からの商品は入荷量が減っている状況です。全国的に夏場から連日の高温続きで、産地では着色の遅れや日焼け果、カメ虫などの大量発生により出荷遅れが目立ち、例年に比べ体質が弱くなるなどの影響を受けていますので、年末は入荷量が少なくなる可能性が高いです。年明けも同様の見通しです。輸入果実については、為替の影響から全体的に高値で推移しています。バナナは天候不順から不作で入荷量が減少していましたが現在は回復しており、年末年始は十分な入荷量が期待されます。シトラス（柑橘）関係は端境期にあたり入荷量が大幅に減る見通しです。全体的に国産果実の動向から荷動き鈍化傾向が予測されます。

【品目別】

ミカン	長崎産は連日の猛暑の影響から出荷数量は2割くらい減少する見込みで価格は前年よりやや高いと予想しています。販売時期は年明け1月下旬頃までになります。熊本産は年末に向け大玉傾向で普通柑は12月12日頃から販売開始になり年内で入荷終了となります。価格は前年より全体的に高くなる見込みです。静岡産は12月中旬頃から品種「青島」が出荷開始となります。年末・年始は他の産地が少ないため、昨年よりも引き合いが強くなり、やや高めになると予想しています。
リンゴ	青森産は昨年出荷数量が大きく減少したが、今年は前年並みの入荷数量を見込んでいます。輸出の需要が多いことが予想されるので昨年より、やや高値で推移すると予想しています。岩手産は出荷数量については、昨年より多い見込みですが生育順調で大玉傾向の為、価格は前年並みの動きになると思われれます。入荷は年内で終了する見込みです。
カキ	奈良産は品種「富有柿」の冷蔵物が12月17日頃から出荷開始となります。1～2回の入荷で15～20t位の入荷量になり、価格は昨年より高く1kg550円～500円位になる見込みです。干し柿は新潟産が12月上旬の入荷で終了。数量減で昨年より高値が予想されています。宮城産は1月下旬頃まで入荷があり、数量減で高値になる見込みです。
バナナ	フィリピン産は4月～5月の雨の影響でしばらく作柄が悪い状況が続いたが、予想より早く回復しハイランド系などの高糖度の入荷は少ないが、レギュラー系は安定供給できる見込みです。年末・年始の価格は昨年よりやや高めです。
イチゴ	宮城産は生育順調で前倒し傾向の出荷になる見込みです。12月のクリスマス需要期は昨年並みの数量ですがサイズによっては高値が予想されます。12月下旬から年明けにかけ数量は増えます。栃木産は天候に恵まれ前倒し傾向の出荷になる見込みで昨年より数量が増えると予想しています。価格は昨年より高値になると思われれます。
温室メロン	熊本産は昨年より入荷が少ない見込みで、単価高で推移することが予想されています。販売期間は年末20日前後で終了、流通の問題もあり年明けは未定です。高知産は12月を通して昨年より入荷量が少ない見込みです。12月中旬頃から極端に単価が上がると予想しています。12月下旬は経費削減の為、入荷が切れる可能性があります。1月は初売りから入荷し価格は年内の終わりと同じになります。